

# 2007(平成19)年度事業報告

## 1. 国際協力事業

本年度は、カンボジア王国、ウガンダ共和国、コンゴ民主共和国の計3カ国で、国際協力事業を行った。詳細は下記に明記した。

### ■カンボジア事業

#### バナン地域村落開発プロジェクト

バタンバン州バナン地域のかつて地雷原だったドーン村とチャンホー・スヴァイ村の2村で、村落開発プロジェクトを実施しました。2007年4月から9月までフェーズ2としてそれぞれの村で住民組織(登録家族それぞれの村で約70家族)を設立し、マイクロクレジットや貯蓄制度による健康保険システムの構築、ワークショップの開催などを住民自身が運営することを支援しました。マイクロクレジットでは、2村とも天候に恵まれ、1家族だけが作物の栽培に失敗し、返済できなかったほかは、ほとんどの家族が農作物の収穫で収入を向上させ、返済することができました。健康保険制度では、一家5人がサムロート地域にある



畑でマラリアに感染した家族に、治療費は他のNGOが負担したものの、その間の食費などとして住民組織から保険が適用され、生活の悪化を食い止めることができました。また、チャンホー・スヴァイ村のルン・タッチさんは、村人の誰



もがあきらめていたほどお腹が膨れる病気になりましたが、プノンペン  
のシハヌーク病院を紹介し、一命を取り留めることができました。ワー  
クショップでは、それぞれの村で民主主義、プライマリーヘルスケア、  
地雷回避教育のテーマで開催し、村人の知識を深めることができました。  
またチャンホー・スヴァイ村では、村人から集めた資金とテラ・ルネ  
ッサンスから提供した資金により奨学制度を設立し、制服や文房具な  
どを提供することで、17人の学校へ通えていなかった子どもたちが小  
学校へ通えるようになっています。

#### 地雷撤去支援プロジェクト

##### 地雷除去活動費の提供

2007年8月と2008年3月の2回行ったスタディツアーの際に提携する地雷撤去団体MAGへ地雷撤去活動費として合計4,482ドルを提供しました。MAGに限らずカンボジアで活動する地雷撤去団体は、活動費を維持することが難しくなっており、MAGも4つの地雷撤去チームが資金不足で活動を停止する時期もあったなかでの資金提供で、地雷撤去により土地を安全にすることだけでなく、MAGの地雷撤去作業員の生活も守ることができました。



## 金属探知機の提供

近年カンボジアでは、地雷撤去基準の見直しがされ、地中深さ 13cm までをチェックすることが義務付けられました。これにより、これまでほとんどの地雷撤去チームが使用してきた旧式の金属探知機では、中国製の対人地雷タイプ 72A というわずかな金属しか使われていない地雷が、深さ 13cm に埋められている場合、探知することが非常に難しくなります。旧式の探知機では、一度確認した土地の地表を削り取り、再度同じ場所をチェックするという、とても時間のかかる作業を強いられていました。そのため新しい Minelab-3 という金属探知機への入れ替えをする必要に迫られていますが、MAG でも資金面の問題からすべてが行われているわけではありませんでした。そこで 2007 年 12 月に京都東ライオンズクラブ 45 周年記念事業としてご寄付頂き、10 台の Minelab-3 の金属探知機をテラ・ルネッサンスから提供しました。これによりタイプ 72A の地雷が多く埋められているタイ国境のバンテアイミエンチャイ州マライ郡での地雷撤去に使用され、大幅な撤去時間の削減と地雷撤去作業員の安全を確保することに貢献しています。



## カンボジア義肢装具士育成プロジェクト

### 女性義肢装具士育成のための奨学金提供

スタディツアーの際にカンボジア義肢装具士養成学校を訪問し、ヒム・カンニャさんの学費、8000 ドルを奨学金として提供しています。特に女性の義肢装具士がカンボジアでは足りておらず、女性義肢装具士を育成するためにサポートしています。カンニャさんは 2007 年 10 月に進級テストに合格し、1 年生から 2 年生へと進級しています。



### 地雷被害者への義足提供

京都東ライオンズクラブ 45 周年記念事業として、テラ・ルネッサンスを通して地雷被害者が多くいるシェムリアップ州にあるハンディキャップ・インターナショナルで、地雷被害者へ義足 10 本を製作してもらい、無料で提供しました。義足製作は、2006 年 9 月にカンボジア義肢装具士養成学校を卒業したテラ・ルネッサンスの最初の奨学生、ウム・ソクンさんをお願いしました。



## ■ラオス事業調査

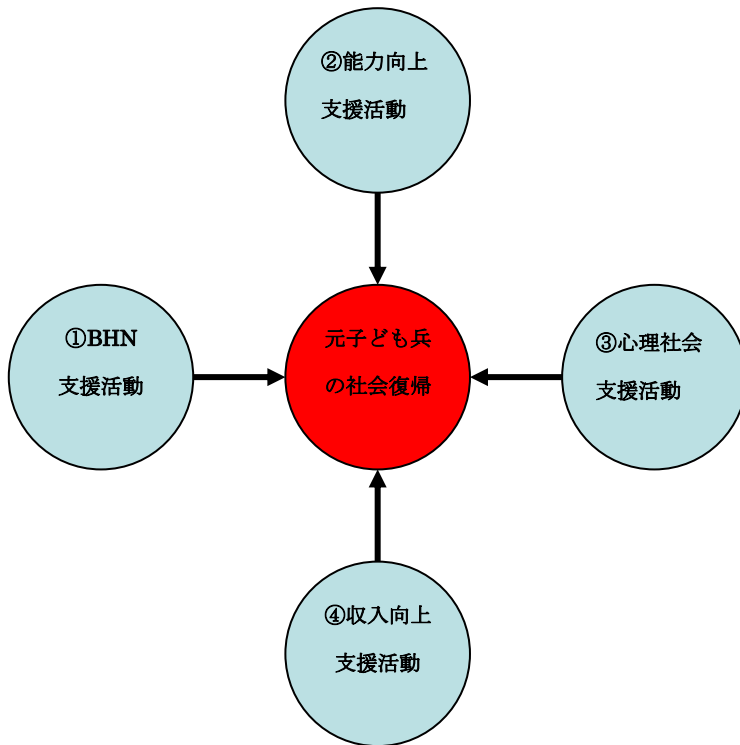


ラオス、シェンクアン州で不発弾処理を行う MAG-LAO の協力のもと調査を行いました。来年度以降始める予定の不発弾撤去支援とともにクラスター爆弾の禁止キャンペーン、そして不発弾撤去後の学校建設支援などの事前調査を実施し、撤去予定地、学校建設予定地の選定を実施しました。

## ■ウガンダ事業

ウガンダ事務所に引き続き日本人駐在員を派遣しウガンダ北部地域にて元子ども兵社会復帰支援などを実施した。各プロジェクトの活動の詳細は下記の通りである。

### 1.1 ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト(対象地域:グル県)



07年12月に15名の新規受益者を受け入れ、計92名の元子ども兵士とその近隣住民50名の計142名を対象とした支援活動を行った。同プロジェクトにおいては、協力団体のGUSCOでリハビリを受け、施設を出てコミュニティーに帰還した元子ども兵を対象に、3年以内に自立することを目標に、職業訓練や小規模ビジネスの指導など、社会復帰に必要な訓練を包括的に行った。訓練の後半には元子ども兵の近隣住民にもマイクロクレジットを支給し、近隣の貧困層住民と共に自らが収入向上活動を実践し、経済的に自立し帰還地域のコミュニティーで社会復帰していけるよう、下記のプロジェクトフローの元に活動を行った。同プロジェクトは左記図に示す4つの活動により構成されている。

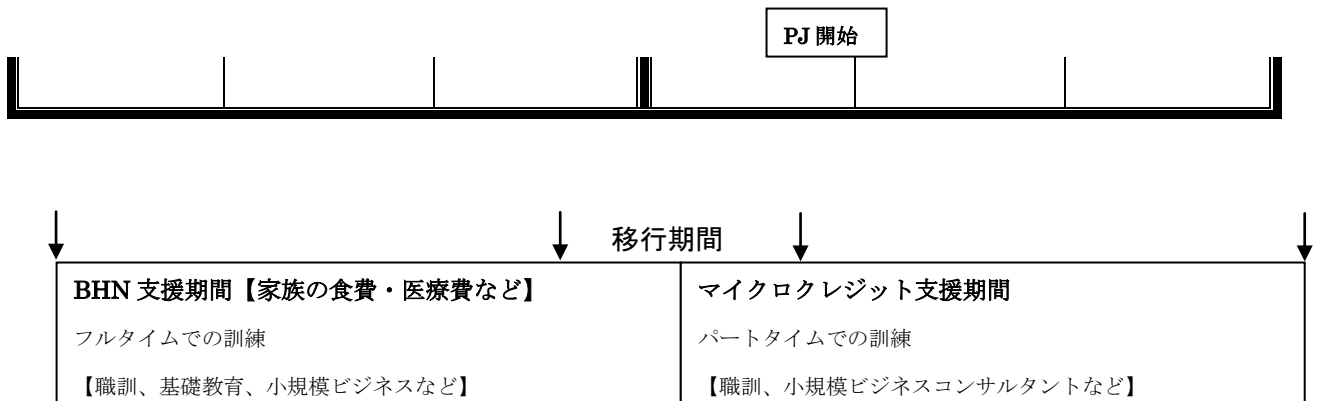


図1 プロジェクトのフロー図

## ① BHN 支援活動



(写真左)給食の様子

生活を安定させる為に訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて毎月の食費と医療費をクーポンチケットで配布した。そのクーポン券は受益者各自の近くの食料品店、診療所でのみ使えるようテラ・ルネッサンスと契約し、村の診療所で治療が困難な場合は、ラチョー病院(北部地域最大の病院)に搬送し、治療や診療を行った。また、受益者の家族の状況に応じて、家賃や生活必需品の支給及び受益者の子ども(小学生)の学費の支援も併せて行った。なお、訓練期間中は毎日給食を施設内で調理し提供した。

## ②能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始めるのに必要な職業技術、識字、計算などの能力を向上するための基礎教育などを行った。職業訓練では、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の 4 科目を開講し、基礎教育の授業で識字、算数、英語の授業を行った。また、予習と復習をかねて職業訓練、基礎教育の個別指導や視覚障害者の為の特別授業も行った。



(写真左) 洋裁クラスの様子  
の様子



(写真中) 服飾デザインクラスの様子



(写真右) 手工芸クラス(染色のグループ実習)



(写真左・中央) 木工大工クラス(実習)の様子



(写真右) 手工芸クラス(ネックレス作り)の様子





(写真上) 視覚障害者のための特別クラスの様子(点字の練習)

### ③心理社会支援活動（ルーツ&シューズ活動）

受益者はグスコ(協力団体)などでのリハビリを数週間受けた後、帰還しているが、トラウマ(心の傷)が完全に消えるわけではなく、また、同じ境遇の元子ども兵だけで生活していたグスコから、一般社会に出た時に、経済的な不安や地域住民との関係など新たな心配事や悩みでストレスを感じる子どもも少なくなく、受益者個別に悩みやトラウマなど、その程度も様々であることから、個別カウンセリングとグループでのクラスを両方実施し、音楽や伝統ダンス、自作ドラマの創作、日本の子どもとの国際交流(手紙交換など)を通したトラウマケア、伝統儀式を通した心理社会サポートなどを行った。また、週に1回、元子ども兵とその近隣住民を対象にアチョリ民族の伝統的な和解方法などについて学ぶ授業を開講し、受益者とその近隣住民の子どもたち(6歳～14歳)に対しても、伝統ダンスや歌、ドラマの授業を週末に開講した。



(写真左と中央) 伝統儀式を通した心理社会サポート。出身の村でアチョリ民族の伝統的儀式を行い、悪霊を追払い、過去の残虐行為などを清算し精神的な安定を図る儀式。受益者の出身の村近くの国内避難民キャンプにて行った

(写真右) 受益者とその近隣住民の子どもたちへの平和教育(ルーツ&シューズ)の授業の様子



(写真左) アチョリ民族の伝統的な和解のメカニズムなどを近隣の住民とともに学ぶ和解促進の為のクラスの様子

(写真中央と右) 伝統ダンスのクラスの様子



(写真左) 国際交流活動の様子。日本の子どもたちからのメッセージカードを受け取った受益者たち

(写真中) 国際交流活動の様子。日本の高校生からのビデオレターを見る受益者たち

(写真右) 国連国際平和の日に世界中のルーツ&シューツグループと共に平和の鳩を製作したときの様子

#### ④収入向上(マイクロクレジット)支援活動

小規模ビジネスクラスを週2回開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識など、マイクロクレジットを使って収入向上活動をしていくために必要な事項の訓練を行った。この活動では元子ども兵の受益者に加え、各自の近隣の貧困層の住民をパートナーとして受け入れて実施した。昨年度マイクロクレジットを支給していなかった1期生とその近隣住民12名と2期生及びその近隣住民が今年度、同クラスを修了し、マイクロクレジットを元に収入向上活動を始めた。マイクロクレジットを受け取った受益者たちは収入向上活動をそれぞれ行いながら、施設でもパートタイムの訓練生として更なる技術の向上に励みながら、定期的にビジネスの状況を他の受益者たちと共有したり、ビジネス講師からの助言やアドバイスを受けながら自立に向けて励んでいる。



(写真左上) 小規模ビジネスクラスの様子。毎週、近隣の地域住民と共に、小規模ビジネスの方法などマイクロクレジットを使って収入向上活動をしていくために必要な知識を学んでいる

(写真左下) 小規模ビジネスのクラスを修了し、マイクロクレジットを受け取った第一期生。グループで炭や農作物の小売を始め、収益の一部を貯蓄しながら収入向上に励んでいる

(写真右) 小規模ビジネスのクラスを修了し、マイクロクレジットを受け取った第二期生。グループで養鶏のビジネスを始めている。

## 1.2 不法小型武器問題啓発プロジェクト(対象地域:カンパラ市)

一昨年、昨年に引き続き、6月の小型武器問題行動週間に世界中のIANSA(国際小型武器行動ネットワーク)加盟団体と共に、ウガンダでもUANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)と協力し、小型武器問題の啓発活動を行った。小型武器の被害が最も深刻な東アフリカ諸国が合意したナイロビ議定書に準じてウガンダ政府が2005年に不法小型武器に関する行動計画を発足したが、政府と市民社会との協力と連携を強化することが求められており、テラ・ルネッサンスでは同国の政府とNGOがこの問題を協力し促進していく為に、政府、国連、NGO メンバー(UANSA)、メディア関係者を招き、シンポジウムを開催した。Inspector General of Police, SSP の Boniface Ebiu 氏がメインゲストとしてスピーチを行い、UNDP から Joe Burua 氏が代表として UNDP の取り組みなどを共有し、各参加者が不法小型武器による影響、また武器貿易条約(ATT)の果たす役割などについても議論した。同時にテレビ、新聞などを通して当日の様子が報道され、一般市民にも不法小型武器問題を啓発することができた。また、同シンポジウム以外にも、定期的にUANSAのメンバーらと小型武器問題への取り組みについてのウガンダでの現状、対策、活動方針、協力体制などについて話し合うミーティングを開催した。



(写真左) 軍・警察が回収、貯蓄していた不法な弾薬約 5 万発を破壊した式典の様子

(写真右・中央) 小型武器問題を各関係者が議論している様子

### 1.3 視察・スタディーツアー

今年度は2度の視察・スタディーツアーを実施した。1度目は 07 年9月に実施し、クラージュハウスの建設や施設への水道工事などのご支援をして下さった(株)リアル・スタイル代表の鍵谷様、元子ども兵社会復帰プロジェクトの運営をご支援いただいている(株)沖縄教育出版社長の川畑様、不動産仲介手数料の1%を毎月ご寄付いただいている伊豆太陽ホーム社長の小西様を初め5名の方が参加し、当会理事長及び当会インターン生2名が添乗員として参加した。2度目の視察・スタディーツアーは 08 年2月に実施され、(株)インフィニティ社長の田原様、(株)アッセン社長の玉理様、漫画家の西原様を初め6名の方が当会施設を視察し、第1回同様、当会理事長及びインターン生がアテンドした。視察内容は、第1回、2回とも、当会のウガンダ北部のプロジェクト実施地域グル市の当会施設訪問、訓練・授業風景の参観、受益者との交流などを行った。



(写真左) 第1回視察参加者と受益者での最終日記念撮影

(写真中) 第1回視察団からサッカーボールや文具品などを当会施設にご支援いただいた時の様子

(写真中央) 第2回視察団と受益者の家庭訪問の様子

### 1.4 グローブハウスⅡ建設プロジェクト(対象地域:グル県)

(株)アイケイ様のグローブ基金より、ウガンダ北部のグル県に社会的弱者の人々への農業訓練、生ごみ堆肥(コンポスト)作り、小規模ビジネスの指導などを行う為の施設グローブハウスⅡを建設した。同施設は現地 NGO(PVP「平和の為の人々の声」)が運営・管理を行っていくものとして当会と契約を交わしている。





(写真左・中央) グル県に建設されたグローブハウスⅡ

(写真右) 現地 NGO(PVP「平和の為の人々の声」)の代表(写真左)と契約を交わす当会現地駐在職員(右)

### 1.5 ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰の為の職業訓練センター建設プロジェクト(対象地域:グル県)

日本 NGO 支援無償資金協力贈与契約に基づき「ウガンダ北部における元子ども兵士社会復帰の為の職業訓練センター建設プロジェクト(Construction project of vocational training center for the reintegration of former child soldiers in northern part of Uganda)」を実施し、服飾デザイン、木工大工の職業訓練施設及び施設敷地内のブロック塀を建設し、施設内の機材・備品を整備した。また、元子ども兵と地域住民の融和・和解促進の観点から地域住民とLRAの元兵士に対しプロジェクト期間中4回の和解促進の為のワークショップを開催し、予定していた 400 名を上回る累計 503 名がワークショップに参加した(リピーターを含めるとワークショップの全参加人数は累計で 838 名)。



(写真左) 完成した施設



(写真中) ブロック塀とゲート



(写真右) グル県庁前に立てられた道標



(写真左) 整備された服飾デザイン教室



(写真中) 整備された木工大工教室



(写真右) 和解促進のワークショップ

## コンゴ民主共和国事業

本年度からコンゴ民主共和国での事業を南キブ州ブカブ市に拠点を置く現地 NGO「GRAM」と提携契約を交わし開始した。本年度は GRAM の組織基盤の強化と活動拠点の整備を行う為、プロジェクト管理の指導、オフィス器具の提供、カロンゲ地区での元子ども兵の社会復帰の簡易施設の建設資材の提供などを行った。



(写真左上) 南キブ州で元反政府軍の「マイマイ」の子ども兵士たち (撮影: GRAM)

(写真右上) 南キブ州で子ども兵士として戦った後、解放されて町に戻ってきた元子ども兵士たちと当会ウガンダ駐在の小川



(写真左) 南キブ州、カロンゲ地区に建てられた簡易の元子ども兵社会復帰のための施設。建設資機材などを提供し、住民たちが労働力を提供し完成した。



## ■啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題(地雷、小型武器、子ども兵)について、講演やイベントの実施などを通して、啓発活動に積極的に取り組んだ。

### 講演

理事長による講演を各地で実施。企業での講演が増加した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢(地雷)」、「ぼくは 13 歳 職業、兵士(子ども兵)」。

### 課題の啓発、各種キャンペーン

テラ・ルネッサンスが取り組む 3 つの課題、地雷、小型武器、子ども兵問題を解決するためには、市民への啓発活動と、国連や政府関係者への働きかけという 2 つのアプローチが必要になる。私たちは、小型武器問題に関心のある NGO で日本小型武器行動ネットワーク(JANSA)を結成。様々なキャンペーン活動を展開している。

### インターネット(ホームページ、メールマガジンなど)

理事長、小川理事、江角理事、インターンによるブログを開設し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。また、メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、現在のところ、2000名の読者に、活動報告、イベント情報などを提供している。

### 報道

本年度は、理事長の講演やイベントを開催するごとにプレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。

## 組織運営に関する報告

### ■財源確保

#### 大口支援者について

本年度は、海外事業の急速な拡大に伴い、新規の資金調達に努めた結果、以下の企業・団体から支援を新規に頂くことになった。ほとんどの企業、団体で、顧客や社員などのステークホルダーへの報告(講演、書面など)を実施し、支援者、被支援者の関係を越え、平等な協働相手(パートナー)として、今後も協働することを確認した。主な大口支援者を下記に明記した。

企業・団体名	内容
宗教法人松緑神道大和山(ウガンダ事業)	元子ども兵社会復帰促進センター(名称:スマイルハウス)の建設費と、2005年から2009年までの5年間の運営費を一部支援くださることになった。
株式会社アイケイ(グローブ基金)(ウガンダ事業)	2006年度に建設する元子ども兵社会復帰促進センター識字教育棟の建設資金を支援いただいた。
有限会社リアルスタイル(カンボジア事業)	鍵谷健氏(有限会社リアルスタイル代表取締役)を初めとするインターネット起業家によるチャリティーセミナーを開催し、収益を職業訓練棟建設費用などに寄付くださった。

#### 企業・団体との協働(コラボレーションについて)

本年度は、様々な企業・団体と協働事業を行った。主な取り組みを下記に明記する。

企業・団体名	内容
株式会社伊豆太陽ホーム	不動産物件仲介手数料1%を毎月寄付くださっている
株式会社ジュピター	ニンテンドーDS 関連商品売上1個につき1円を寄付くださっている
中井隆栄氏・北川八郎氏	著書印税を定期的に寄付くださっている
京都文紙事務用品組合	「えんぴつ大使」と銘打って、組合加盟店で不用になった文具を回収。カンボジアスタディツアー時にカンボジアまで運搬。ピースフルチルドレンホームⅡなど、孤児院、学校に配布した。

#### 各種募金活動

本年度は、本会主催の街頭募金活動は行わなかったが、各地域で自主的に支援者が街頭募金活動などを行ってくれた。

#### 各種収集キャンペーン

本年度、書き損じはがきなど、海外事業費に充てるための収集キャンペーンを実施。特に中古インクカートリッジ収集事業は大きな広がりを見せている。

書き損じはがき	年賀状の書き損じはがきをターゲットにした回収キャンペーンを開始。郵便局で新しい切手やはがきに交換し、テラ・ルネッサンスの通信費の削減などを通じて、海外事業費の拡充に貢献している。
中古インクジェットカートリッジ	株式会社エネックス(本社:福井県福井市)と提携し、中古インクジェットカートリッジの回収を行い、買取代金を海外事業費に充てることにした。企業や学校での国際協力として定着しつつある。

## 協力団体との連携(キャンペーン)

今年度は、6団体に加盟し、様々な協働事業、キャンペーンなどを実施したり、活動の展開の上で有益な情報を得ることができた。

団体名	活動内容
地雷廃絶日本キャンペーン 会費:1万円	国内での啓発活動に協力。
日本小型武器行動ネットワーク 会費:1万円	鬼丸理事と小川理事が、日本小型武器行動ネットワークの運営委員を務める。加盟団体で小型武器に関する情報交換を行ったり、武器問題の啓発を共同で行った。
ウガンダ小型武器行動ネットワーク 会費:なし	テラ・ルネッサンスの資金提供により、ウガンダ国内のジャーナリストへの武器問題啓発のワークショップを行うなど、ウガンダ国内の武器規制の世論形成に貢献した。
国際小型武器行動ネットワーク 会費:なし	武器問題の各国 NGO の取り組みなど、有益な情報を機関誌、メールマガジンにて得ることができた。
世界子ども兵禁止連盟 会費:なし	子ども兵問題の各国 NGO の取り組みなど、有益な情報をメールマガジンにて得ることができた。
京都 NGO 協議会 会費:3,000円	鬼丸理事長が会計を務める。ニュースレターなどで、外務省の助成金情報など有益な情報を得ることができた。

## ■体制

### 役員(顧問、理事、監事)

2007年度の役員は、次の通り。(2008年3月31日現在)

理事長 鬼丸昌也  
 常任理事 小川真吾  
 常任理事 森本倫子  
 常任理事 江角泰  
 理事 中井隆栄  
 理事 岡田則子  
 監事 本田俊雄

### 事務局体制

京都事務局 専従無給職員1名、専従有給職員4名で運営を行った。

ウガンダ事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ10名で運営を行った。

カンボジア事務局 ローカルスタッフ3名で運営を行った。

## インターン、ボランティアの受入

今年度は4つの受け入れ方法で、延べ13人のインターンを育成した。

テラ・ルネッサンス 独自受け入れインターン生（半年～1年以上）		昨年度より継続受け入れ2人 新規受け入れ5人 延べ7人	
受け入れ目的	①長期的に事業にかかわってもらうことで、当会の事業を担う人材を育成する。 ②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受け入れ実績	継続～3月	立命館大学博士課程前期2回生	ウガンダ事業主担当
	継続～11月	立命館大学4回生	ボランティア事業担当
	4月～9月	京都府立大学4回生	支援者サービス担当
	5月～3月	大阪大学3回生	ウガンダ事業副担当
	10月～	立命館大学3回生	ウガンダ事業担当
	10月～	立命館大学3回生	ボランティア事業担当
	12月～	社会人	コンゴ事業担当

ボランティアコーディネーター養成プログラム(夏季2か月間)			3人
受け入れ目的	次世代のボランティアコーディネーターを育成する (立命館大学主催プログラム/当会は受入契約団体に該当)		
受け入れ実績	8月～9月	立命館大学2回生	新規ボランティア獲得PJ
	8月～9月	立命館大学3回生	
	8月～10月	立命館大学2回生	「コーヒー事業PR」PJ

大学コンソーシアムインターンシッププログラム(夏季2か月間)			1人
受け入れ目的	当会の事業を通じ、職業としてのNGO・NPOを就職の選択肢として考えてもらうきっかけとする。また、企業に勤めた際にも、社会貢献の視点をもった働きかたをしてもらうよう、育成する。		
受け入れ実績	8月～9月	立命館大学3回生	ウガンダ事業担当

長期実践型インターンシッププログラム（半年間）			2人
受け入れ目的	① 京都のNPO6団体が協働し、次世代のNPOワーカーを育成する。 ② NPOの現場に即したインターンプログラムを構築する		
受入実績	10月～3月	龍谷大学4回生	募金箱事業拡大PJ
	10月～3月	鳥取大学3回生	回収事業拡大PJ